

利賀っ子だより



R4. 4. 25

【雪の残るグラウンドと桜】

○ 「利賀はラッキーなところ！」

グラウンドの桜が次々と咲いてきました。県内の桜の名所は、すでに見ごろが過ぎているところが多いのですが、標高が高い利賀は、先週末あたりから見ごろです。

窓ごしに子供たちと桜を眺めていたところ、「校長先生、利賀はラッキーなところなんですよ。みんなが『桜は、もう終わった』と、しょんぼりしているときから、（桜を）楽しめるから。」と自慢げに話す地元の子供。「桜が咲いているから春だけど、まだ雪もあって、朝も夜も寒いし、まだ冬という感じもする…。利賀は、春も冬も一緒にあるところ。」と留学生。「（春祭りの）獅子舞の練習が始まると“春”という感じがするって大人の人が言っていた。」と地元の子供。日々の暮らしの中から季節を感じ、それを表現することができる素敵な子供たちです。



○ 大事な自分だから ～引き渡し訓練～

【指示を聞く子供たち】



地震により通学路が危険な状態となり、児童生徒のみでの下校が危険なため、保護者の方々に迎えに来ていただくという想定で、「引き渡し訓練」を行いました。

引き渡し訓練の予定を聞いたときに、「校長先生は、『自分の命は自分で守る』って言っているよね。それなのに、どうして家の人に迎えに来てもらうの？」と尋ねてきた子供がいました。

「どうしてだと思う？」と問い返すと、しばらく考え、「大事な自分だから。」と返ってきました。

スムーズに引き渡しができるような手順を確認することばかりに意識が向き、なぜ引き渡し訓練を行うのかという一番大切なことについて子供たちと十分話をしていなかったことを反省しました。同時に、子供なりに「自分の命を自分で守る」ことについて意識していることを感じました。

（高田 公美）